

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-325200

(43)Date of publication of application : 08.11.2002

(51)Int.Cl.

H04N 5/232

G06T 3/00

H04N 5/222

(21)Application number : 2001-129078

(71)Applicant : VICTOR CO OF JAPAN LTD

(22)Date of filing : 26.04.2001

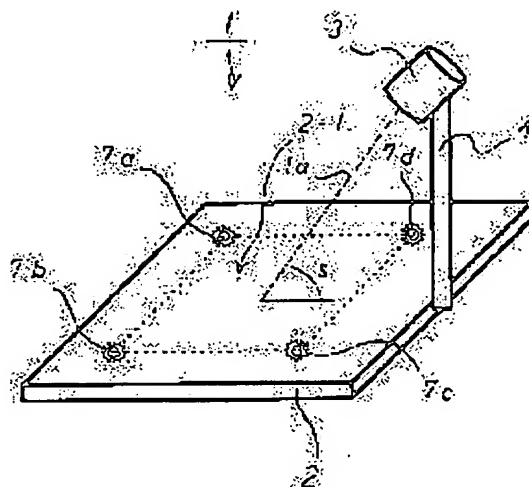
(72)Inventor : WATANABE TAKU
CHIBA YUTAKA

(54) DATA PRESENTATION DEVICE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a data presentation device that can solve problems having been caused in a conventional device such that operation for data exchange is disturbed by the presence of a camera placed on a stage, a face of a presenter is hidden from audience and downsizing and simplicity of the device are hindered and that can prevent production of trapezoidal distortion (keystone distortion) on a display screen.

SOLUTION: The data presentation device 1 is provided with a camera 3 that can be placed with an offset in a parting direction from an operator, light emitting markers 7a-7d that are placed at each of four corners of a square shaped presentation stage 2, an extract section 11 that extracts a video signal with respect to the light emitting markers 7a-7d from the video signal outputted from the camera 3 and resulted from photographing, and correction means (calculation section, display video image generating section) 13, 14 that correct trapezoidal distortion in the video signal photographed on the basis of position information of the light emitting markers 7a-7d in the photographing image.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2002-325200
(P2002-325200A)

(43)公開日 平成14年11月8日(2002.11.8)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

FI

テーマート* (参考)

H04N 5/232

H04N 5/232

Z 5 B 0 5 7

G O 6 T 3/00

G O 6 T 3/00

200 5C022

H04N 5/222

H04N 5/22

$$\mathbf{z}$$

審査請求 未請求 請求項の数1 OL (全 8 頁)

(21)出願番号 特願2001-129078(P2001-129078)

(22)出願日 平成13年4月26日(2001.4.26)

(71)出願人 000004329

日本ビクター株式会社

神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番
地

(72) 発明者 渡辺 卓

神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番
地 日本ビクター株式会社内

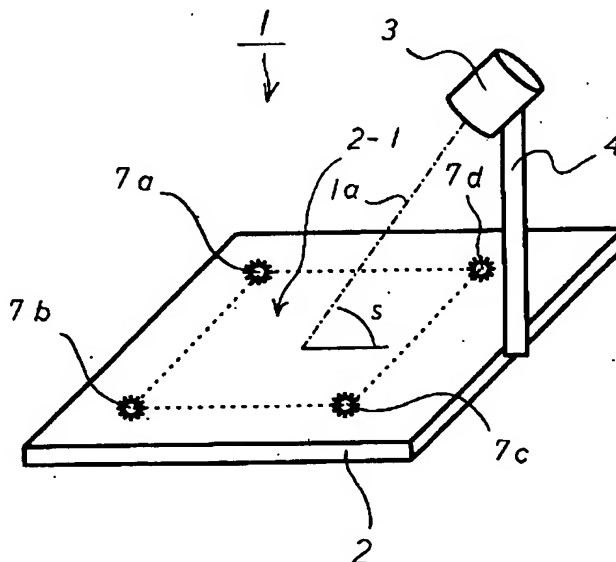
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 資料提示装置

(57) 【要約】

【課題】 提示台（ステージ）上方に配置されたカメラの存在によって資料交換の操作が妨害されたり、プレゼンテーションを行う発表者の顔が聴衆から隠されたり、また装置の小型化や簡潔化を阻害する等の従来構成の諸問題を解決し、かつ表示画面に台形歪み（キーストン歪み）が発生することの無い資料提示装置を提供する。

【解決手段】 操作者から離す方向にオフセットして配置することが可能なカメラ３と、提示台２上の方形の４頂点の各位置に配置した発光マーカー７a～７dと、カメラ３が撮影して出力する映像信号から各発光マーカー７a～７dに係る映像信号を抽出する抽出部１１と、撮影画面内の各発光マーカー７a～７dの位置情報に基づいて撮影された映像信号における台形歪みを補正する補正手段（算出部、表示映像生成部）１３、１４とを具備する資料提示装置１とする。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】被写体となる資料を載置する資料載置部を、前記資料載置部の真上以外の位置から撮像したときに、前記資料載置部上に載置される方形状の資料を方形状の資料の映像として映像出力する資料提示装置であって、
前記資料載置部を有するステージと、
前記資料載置部の四隅にそれぞれ配置される複数の点発光部を有し、複数の前記点発光部を発光することにより全体として方形状の発光表示を行なう点発光手段と、
前記資料載置部の真上以外の撮像位置から方形状の発光表示を行なう前記点発光手段を撮像したときに、方形状の発光表示を行なう前記点発光手段を非方形状の発光表示を行なう点発光手段の映像として映像出力する撮像手段と、
前記撮像手段から出力する非方形状の発光表示を行なう前記点発光手段の映像が、元の方形状の発光表示を行なう前記点発光手段の映像として映像出力されるように、前記撮像手段から出力する映像の補正を行なう補正手段とを備えたことを特徴とする資料提示装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、書類や立体物などの資料を撮影した映像信号を出力して所定のモニター装置に表示させたり、或いは所定のプロジェクター装置を介してスクリーン上に投影させる資料提示装置に関する。

【0002】

【従来の技術】会議や学会、展示会等で用いられる視聴覚機器の 1 種として、平板状のステージ上に書類や実体物等の被写体を載置し、上方から撮影した被写体の撮影像をモニター装置の画面に表示させたり、プロジェクターを介してスクリーン上に投影する資料提示装置が従来から用いられてきた。

【0003】以下、従来の技術に係る資料提示装置 a 10 を、図 4 を参照して説明する。

【0004】従来の資料提示装置 a 10 の外観斜視図である図 4 において、資料提示装置 a 10 は、各部品が取り付く主構造体である本体基台 a 1、書類や実体物等の資料を載置する載置面（ステージ）である提示台 a 2、上方から提示台 a 2 を撮影して資料を含む撮影画像を映像信号として出力するカメラ a 3、本体基台 a 1 から延設されてカメラ a 3 を支持して適切な撮影ポジションに位置させるカメラ支持アーム a 4、及び配設された複数のボタンスイッチを操作することにより装置 a 10 の各種操作を行う操作部 a 5 とを備えている。なお、図 4 図示のように資料を照明する手段である投光器を備える構成としても良い。

【0005】また図 4 には、カメラ a 3 が出力する映像信号を受けて表示画面 b 1 上に資料を含めた映像を表示

するモニター b 0 を、資料提示装置 a 10 と共に示してある。

【0006】資料提示装置 a 10 の使用方法には、モニター b 0 を用いる表示方法のほかにも、カメラ a 3 が出力する映像信号を受けて所定のスクリーン上に表示するビデオプロジェクター（図示しない）を用いる方法があることは上述の通りである。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】上記の従来の資料提示装置 a 10 を用いて資料を表示する操作方法を、以下に具体的に説明する。

【0008】図 5 は従来の資料提示装置 a 10 の操作方法を説明する概念図である。資料提示装置 a 10 を用いる操作者 5 a は、表示をさせたい資料（書類や実体物など、図 5 では図示していない）を装置 a 10 の提示台 a 2 上の所定の資料載置面 a 2-1 に載せる。資料載置面 a 2-1 の上方にはカメラ a 3 がカメラ支持アーム a 4 で支持されて配設されている。このときカメラ a 3 の撮影光軸 5 b は、資料載置面 a 2-1 に対し、そのほぼ中央位置において垂直、又はほぼ垂直に交差するよう構成されている。5 c は、カメラ a 3 の撮影画角範囲を示すための境界線である。

【0009】操作者 5 a は、会議やプレゼンテーションの進行に合わせて資料中の特定箇所を指や指し棒で指し示したり、資料中の特定箇所が表示画面の中央に来るように資料の載置位置をずらしたり、あるいはプレゼンテーションのための説明を聴衆に対して発話するなどしながら表示を続行し、また表示する資料を適宜他の資料へ交換する。

【0010】ところで、上記したように資料提示装置 a 10 の構成においてカメラ a 3 は資料載置面 a 2-1 のほぼ中央の上方に配設されているので、通常、操作者 5 a の顔面付近に位置することが多い。そのため、操作者 5 a が資料の交換等を行う作業の妨げとなるとともに、操作者 5 a がプレゼンテーションの説明者を兼ねる場合、操作者（説明者）5 a の顔を聴衆に対して隠してしまい、プレゼンテーションの進行、品位、効果としては甚だ具合が悪いこととなる。

【0011】更に、資料載置面 a 2-1 のほぼ中央かつ上方にカメラ a 3 を位置させることは資料提示装置 a 10 の設計に際して大きな制約となり、例えばカメラ支持アーム a 4 を折りたたみ方式とする構成では簡潔な折りたたみのための構成を設計することが困難となる場合があった。また上記の制約によりカメラ支持アーム a 4 については資料提示装置 a 10 が大型、大重量、高コストの構成となってしまう恐れがあった。同様に上記の制約から資料提示装置 a 10 の自由なデザインを行なうことを妨げ、資料提示装置 a 10 のデザイン性を低下させる恐れもあった。

【0012】資料の表示を行なう際の操作性を低下さ

3

せ、説明者の顔を聴衆に対して隠してしまい、また資料提示装置 a 10 の設計、デザインを制約してしまう、という上記の問題を解決しようとして、例えば図 6 (A) に示す如くの構成を有する仮想的な資料提示装置 a 20 を想起することは容易である。

【0013】図 6 (A) に示す仮想的な資料提示装置 a 20 は、図 5 に示した従来の資料提示装置 a 10 に対し、カメラ a 23 の設置位置と、撮影光軸 6 a の方向とを異なる構成としたものである。すなわち仮想的な資料提示装置 a 20 においてカメラ a 23 は、提示台 a 22 10 上面の資料載置面 a 22-1 の中央ではなく、操作者 5 a から離れた（オフセットした）位置の上方に設置され、更にカメラ a 23 の撮影光軸 6 a が直角とは異なる角度で資料載置面 a 22-1 に対し、そのほぼ中央で交差するよう構成されている。また上記の構成が実現するようにカメラ支持アーム a 24 がカメラ a 23 を支持して延設されている。

【0014】図 6 (A) の仮想的な資料提示装置 a 20 によれば、カメラ a 23 が操作者 5 a から離れた位置にあり、またカメラ a 23 を支持するカメラ支持アーム a 24 が従来よりもコンパクトに構成できるので、資料の表示を行なう際の操作性を低下させ、説明者の顔を聴衆に対して隠してしまい、また資料提示装置の設計、デザインを制約してしまう、という上記に示した従来の問題は、確かに解決される。しかしながら図 6 (A) の仮想的な資料提示装置 a 20 では、カメラ a 23 の撮影光軸 6 a が資料載置面 a 22-1 に対して直交しないことから、以下に説明するように表示画面における「台形歪み」という新たな問題が生じることとなる。

【0015】上記の台形歪み（キーストン歪みともいう）とは、例えば方形（正方形や長方形）の被写体が、実際とは異なる台形の形状に表示されてしまう現象である。すなわち図 5 の従来の資料提示装置 a 10 では図 6 (B) の如く正常に長方形に表示される長方形の資料 6 b が、図 6 (A) の構成の仮想的な資料提示装置 a 20 では、図 6 (C) に示すように図示上方の辺 6 c-1 が拡大される一方、図示下方の辺 6 c-2 が縮小された、台形に歪んだ形状 6 c で表示されてしまう。

【0016】上記の台形歪み現象は、周知の幾何光学に基いて以下のように発生原因を説明できる。図 6 (A) において、6 a は上述のように撮影光軸、6 d は資料載置面 a 22-1 の点であり撮影光軸 6 a 上にあるものとする。6 f は資料載置面 a 22-1 面上で点 6 d よりも操作者から奥の方向にある点、6 e は点 6 d の手前方向にある資料載置面 a 22-1 上の点であり、また点 6 d は、点 6 f と点 6 e との中央に位置するものとする。

【0017】また、6 g はカメラ a 23 の撮影レンズの主点、6 i は点 6 f から主点 6 g に至る主光線、6 h は点 6 e から主点 6 g へ至る主光線である。

【0018】図 6 (A) の配置において、上述の如く撮

4

影光軸 6 a が資料載置面 a 22-1 と交わる角度 p は直角とは異なる鋭角であるので、幾何学的な性質から主光線 6 i が撮影光軸 6 a となす角 q は、主光線 6 h が撮影光軸 6 a となす角 r より大となる。

【0019】一方、主光線 6 i 及び 6 h は主点 6 g を通過後もそのまま直進して撮影レンズの後方に配置された撮像素子（図示しない）に達する。撮像素子は撮影光軸 6 a に対して垂直に配置されているので、主光線 6 i が撮像素子と交わる像点は、主光線 6 h が撮像素子と交わる像点よりも撮影光軸 6 a からの距離（像高）が大である。すなわち、物界である資料載置面 a 22-1 上では撮影光軸 6 a が交わる点 6 d から同一距離にあるにも関わらず、像界である撮像素子面上では点 6 f の方が点 6 e よりも像倍率が大であるので、図 6 (C) の如くの台形歪みが発生するものである。なお、台形歪みを含め、上記のように像倍率の不均一に起因して像が歪む現象を総称して図形歪みともいう。

【0020】上記したように従来技術によれば、資料の表示を行なう際の操作性を低下させ、説明者の顔を聴衆に対して隠してしまい、また資料提示装置の設計、デザインを制約してしまう、という従来の問題を解決し、かつ図形歪みの無い資料表示映像が得られる資料提示装置を実現することが出来なかった。また従来技術の資料提示装置を改変した、図 6 図示構成とは又異なる構成の資料提示装置として、カメラを支持するアームが可動式であって、操作者がカメラを動かして撮影位置を変える操作（いわゆるスイング操作）を適宜行うことによって、ステージを真上から撮影することも、ステージを真上以外の斜めの位置から撮影することも可能な資料提示装置（図示しない）もまた想定が可能である。しかしこの構成においても図 6 図示構成と同じように、カメラが操作者の顔面等から離れた位置に位置させることが可能で操作性等の使い勝手が向上するものの、図形歪みが表示画面に発生してしまう不具合が生じる。

【0021】そこで、本発明は、上記した問題点に鑑みて成されたものであり、特に被写体となる資料を載置する資料載置部を、資料載置部の真上以外の位置から撮像したときに、資料載置部上に載置される方形の資料を方形の資料の映像として映像出力する資料提示装置であって、資料載置部を有するステージと、資料載置部の四隅にそれぞれ配置される複数の点発光部を有し、複数の点発光部を発光することにより全体として方形の発光表示を行なう点発光手段と、資料載置部の真上以外の撮像位置から方形の発光表示を行なう点発光手段を撮像したときに、方形の発光表示を行なう点発光手段を非方形の発光表示を行なう点発光手段の映像として映像出力する撮像手段と、撮像手段から出力する非方形の発光表示を行なう点発光手段の映像が、元の方形の発光表示を行なう点発光手段の映像として映像出力されるように、撮像手段から出力する映像の補正を行なう補

5

正手段とを備えたことを特徴とする資料提示装置とすることにより、資料の表示を行なう際の操作性を向上させ、説明者の顔を聴衆に対して隠すことが無く、またカメラの配置に起因する資料提示装置の設計、デザイン上の制約を解消し、かつ図形歪みの無い資料表示映像を得ることが出来る資料提示装置を提供することを目的とする。

【0022】

【課題を解決するための手段】上述した課題を解決するために、本発明は、下記の構成を有する資料提示装置を提供する。被写体となる資料（原稿、実体物）を載置する資料載置部（資料載置面）2-1を、前記資料載置部2-1の真上以外の位置から撮像したときに、前記資料載置部2-1上に載置される方形状の資料を方形状の資料の映像として映像出力する資料提示装置1であって、前記資料載置部2-1を有するステージ（提示台）2と、前記資料載置部2-1の四隅にそれぞれ配置される複数の点発光部（発光マーカー）7a~7dを有し、複数の前記点発光部7a~7dを発光することにより全体として方形状の発光表示を行なう点発光手段7a~7dと、前記資料載置部2-1の真上以外の撮像位置から方形状の発光表示を行なう前記点発光手段7a~7dを撮像したときに、方形状の発光表示を行なう前記点発光手段7a~7dを非方形状の発光表示を行なう点発光手段7a~7dの映像（図3（A））として映像出力する撮像手段（カメラ）3と、前記撮像手段3から出力する非方形状の発光表示を行なう前記点発光手段7a~7dの映像が、元の方形状の発光表示を行なう前記点発光手段の映像として映像出力されるように、前記撮像手段から出力する映像の補正を行なう補正手段（図2 抽出部11、画像メモリ12、算出部13、表示映像生成部14）とを備えたことを特徴とする資料提示装置1を提供するものである。

【0023】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態の好ましい一実施例につき、図1~図3を用いて説明を行なう。図1は本発明の実施の形態に係る一実施例である資料提示装置の模式的な斜視図、図2は図1の装置が有するカメラのブロック図、図3は図1の装置が実行する台形歪み補正を説明するための表示画面のパターン図である。なお、前述したものと同一部分には同一符号を付しその説明を省略する。

【0024】本実施例の資料提示装置1は、その模式的な外観斜視図である図1に示すように、各部品が取り付け主構造体である本体基台2、書類や実体物等の資料を載置する載置面（ステージ）である提示台2、上方から提示台2を撮影して資料を含む撮影画像を映像信号として出力するカメラ3、本体基台2から延設されてカメラ3を支持することによって適切な撮影ポジションにカメラ3を位置させるカメラ支持アーム4、及び装置の各種

6

の操作を行なう操作部とを備え、また資料の照明手段である投光器を備えても良い構成とした点は、先に説明した従来の資料提示装置a10と同じである。

【0025】しかしながら本実施例の資料提示装置1は、カメラ3は提示台2上面の資料載置面2-1の中央上方のみではなく、図示しない操作者の位置に対して反対側の位置（図1図示方向で右側）へオフセットして配置することが可能なようにスイング操作を行うことが出来、上記のオフセットして配置した場合はカメラ3の撮影光軸1aは資料載置面2-1とその中央又はほぼ中央で交差するものの、直交することは無く、所定の角度sで交差するよう配置することができる構成を採用し得る。

【0026】上記のようにカメラ3を配置、支持するためのカメラ支持アーム4は、従来の構成と比較して小型、軽量、簡潔な構成であって、折りたたみ方式の構成とすることもまた容易である。従って上記した従来技術に係る資料提示装置a10の使用上の問題点である、カメラを資料載置面の中央に位置させる必要からカメラ支持アーム、ひいては資料提示装置が大型、高コスト、複雑な構成となり、デザイン性の向上を妨げる、という問題が本実施例の装置1では解消される。

【0027】更に、カメラ3が上記のようにオフセットされて配置が可能に構成されているので、オフセットの配置をすることにより操作者が行なう種々の操作の障害となることは無く装置1の操作性が向上し、またプレゼンテーションに際して操作者の顔が聴衆に対して隠される、という不具合も無くなる。

【0028】なお、図1においては、本実施例の特徴的な構成に傾注して説明を行うため、投光器や操作部は図示を省略し、また基台は提示台2と一体に図示してある。また図1は発明の主旨をより明瞭とするために、カメラ支持アーム4の折りたたみ構造や、カメラ3をスイングさせるための可動式構造の図示を省略してある。さらに、上記に説明したカメラ支持アーム4をスイング操作可能な可動式とはせず、図1図示の位置でカメラ3が固定されるように構成することも可能であり、その場合も以下に説明する本発明の効果が同様に発揮されるものであり、本発明が包含する構成である。

【0029】更に、本実施例の資料提示装置1は、図1に図示するように、資料載置面2-1面上において方形（正方形又は長方形）の4の頂点にそれぞれ位置するように発光マーカー7a、7b、7c、7dをそれぞれ配置している。発光マーカー7a、7b、7c、7dは発光ダイオードなどの発光部材で実現され、図示せざる発光制御手段により電力の供給と発光／非発光の制御とがなされる。なお、発光マーカー7a、7b、7c、7dは赤外光等の不可視領域光を発光する構成としても良い。

【0030】次に、図3のブロック図を用いて、カメラ

7

3の内部構成の説明を行なう。

【0031】図3のブロック図において、8は資料載置面2-1からの入射光を受けて資料を含めた資料載置面2-1の被写体像を生成する撮影レンズである。9は、撮影レンズ8が生成した被写体像をアナログ映像信号に変換して出力する固体撮像素子であるカラー用CCDである。10は、カラー用CCD9が出力するアナログ映像信号をデジタル映像信号に変換するA/Dコンバータである。

【0032】11は、A/Dコンバータ10が出力するデジタル映像信号に含まれる発光マーカー7a~7dの映像信号を抽出出力する抽出部である。12は、発光マーカー7a~7dが発光している時の上記デジタル映像信号及び発光マーカー7a~7dが発光していない時の上記デジタル映像信号をそれぞれ記憶する映像メモリである。

【0033】13は、抽出部11が出力する発光マーカー7a~7dの映像信号に基いて、後に説明する台形歪み補正を行うための諸データを算出する算出部である。14は、算出部13が算出した諸データに基いてA/Dコンバータ10が生成出力するデジタル映像信号を加工変形して、台形歪みが補正された補正デジタル信号を生成するDSP（デジタル・シグナル・プロセッサ）部と、生成された補正デジタル信号をアナログ信号に変換して出力するD/Aコンバータ部とを有する表示映像生成部である。15は、表示映像生成部14が出力するアナログ映像信号を外部の表示手段へ出力するためのジャックを有する出力端である。

【0034】次に、本実施例の資料提示装置1が実行する台形補正の手順を、図2のブロック図を参照しつつ図3の表示画面パターン図を用いて説明する。なお図3(A)は台形歪み補正前の表示画面、図3(B)は台形歪み補正後の表示画面のそれぞれのパターン図である。

【0035】本実施例の資料提示装置1において台形歪み補正を行なう方法は、画面の1方向に像倍率を変換する補正を行なって、補正前の画面に現れる台形の歪みを方形に変換する方法である。

【0036】すなわち、先に図2を用いて説明した通り、カメラ3の撮影レンズ8が生成した被写体像はCCD9によってアナログ映像信号に変換された後、A/Dコンバータ10によってデジタル映像信号に変換されて、随時、抽出部11に入力する。

【0037】抽出部11は、発光マーカー7a~7dを発光制御する発光制御部（図示しない）の発光タイミングと同期を取りつつ、各発光マーカー7a~7dが発光している時のデジタル映像信号（図3(A)のパターン）と、発光していない時のデジタル映像信号とを画像メモリ12に記憶させる。各発光マーカー7a~7dの発光タイミングは、例えば映像信号の1フィールド毎に発光と不発光とを交互に繰り返す制御を行っても良い。

8

【0038】なお、発光マーカー7a~7dの発光がモニター等の画面で表示されないようにするために、歪み補正を実行するための発光が終了するまでは表示映像が出力されないようにしたり、表示開始時の短期間のみ発光して補正を行なう検出が完了し、表示画面を見る聴衆には発光が邪魔にならないようにする、などの構成が可能である。

【0039】次に、抽出部11は、記憶した両映像信号の差分計算を行なって、両映像信号の差である発光マーカー7a~7dの発光信号のみを含んだ映像信号を生成して算出部13へ出力する。算出部13は入力した映像信号の各画素のデータを所定の閾値で判別して、各発光マーカー7a~7dの信号を有する画素を特定する。そして特定した画素の画面内におけるアドレスから、算出部13は、撮影した画面内における各発光マーカー7a~7dの座標情報を得る。

【0040】次に算出部13は、図3(A)の如き台形歪みが発生している画面において、長辺3aの両端にある第4発光マーカー7dと第3発光マーカー7cとの距離x1、短辺3bの両端にある第1発光マーカー7aと第2発光マーカー7bとの距離、及び長辺3aと短辺3bとの距離yを得る。

【0041】算出部13は得られた上記のx1、x2及びyを表示映像生成部14へ出力する。表示映像生成部14は入力する上記の各値を用いて以下の手順で台形歪み補正を実行する。

【0042】上述のように本実施例の補正方法では撮影画面における1の方向（図3(A)図示例では図示横方向）に倍率の補正を行なって台形を方形とするものであるから、例えば短辺3bに位置するラインにおいては横方向に(x1)/(x2)倍に画像を拡大すれば長辺3aと同じ長さとなって補正が終了する。長辺3aと短辺3bとの間の各ラインは、1倍から(x1)/(x2)倍まで縦方向の座標に応じてリニアに（比例的に）変化する倍率で拡大すればよい。長辺3aより上、短辺3bより下の各ラインについてはそもそも補正を行わないか、あるいは上記の補正倍率をリニアに更に変化した倍率で拡大もしくは縮小を行ない、補正を完了して図3(B)の如き補正済み映像信号を得る。

【0043】上記に説明した本実施例の台形歪み補正方法では、図3(A)図示方向で画面横方向にのみ画像の拡大、縮小を行って台形を方形に変換したものの画面縦方向補正は行なわなかった。一方、先に「従来の技術」において説明したように、台形歪みの発生原因は像倍率の不均一にあるのであるから画面縦方向にも歪みは発生しており、例えば真円状の図形を上記の方法で補正を行なった結果の表示画面（図3(B)）を微細に観察すれば、円の上部は上下に引き伸ばされる一方、円の下部は上下に圧縮された画像となっていることは確かである。しかしながら台形歪みを有する表示画像が見るものに違

和感を与える最大の理由は、本来方形であるべき資料が台形に歪んで表示される現象にある。従って上記に説明した補正方法によって方形が台形に歪む現象が解消されるので、見るものに違和感を与える最大の原因が取り除かれて本実施例では実用上十分な表示画面が得られるものである。

【0044】なお、上記に説明した資料提示装置1の発光マーカー7a～7dは、その他の構成として特定の発色を呈するカラーマーカーとして、特定の発色に応じた映像信号を抽出することにより、台形歪み補正を実行する構成としても良い。また上記の説明では、本実施例の資料提示装置1ではカメラ3の配置位置のオフセット方向を、資料載置面2-1を上面から見て上部とし、図3のパターン図もこの方向に応じた台形歪みを図示したものである。しかし当然、操作者から向かって右又は左方向、あるいは斜め方向にカメラ3をオフセットした構成としても良く、その場合オフセット方向に応じた図形歪み（上下又は左右にオフセットした場合には台形歪み、斜め方向にオフセットした場合には菱形の歪み）が発生するものの、その発生方向に応じた補正を実行する構成は上記の本実施例の説明から容易に導かれるものであり、いずれも本発明に含まれる。

【0045】

【発明の効果】以上詳述した如く、本発明は、被写体となる資料を載置する資料載置部を、資料載置部の真上以外の位置から撮像したときに、資料載置部上に載置される方形の資料を方形の資料の映像として映像出力する資料提示装置であって、資料載置部を有するステージと、資料載置部の四隅にそれぞれ配置される複数の点発光部を有し、複数の点発光部を発光することにより全体として方形の発光表示を行なう点発光手段と、資料載置部の真上以外の撮像位置から方形の発光表示を行なう点発光手段を撮像したときに、方形の発光表示を行なう点発光手段を非方形の発光表示を行なう点発光手

段の映像として映像出力する撮像手段と、撮像手段から出力する非方形の発光表示を行なう点発光手段の映像が、元の方形の発光表示を行なう点発光手段の映像として映像出力されるように、撮像手段から出力する映像の補正を行なう補正手段とを備えたことを特徴とする資料提示装置とすることにより、資料の表示を行なう際の操作性を向上させ、説明者の顔を聴衆に対して隠すことが無く、またカメラの配置に起因する資料提示装置の設計、デザイン上の制約を解消し、かつ図形歪みの無い資料表示映像を得ることが出来る資料提示装置を提供することが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の実施の形態に係る一実施例である資料提示装置の模式的な斜視図である。

【図2】 図1の装置が有するカメラのブロック図である。

【図3】 図1の装置が実行する台形歪み補正を説明するための表示画面のパターン図である。

【図4】 従来の資料提示装置の外観斜視図である。

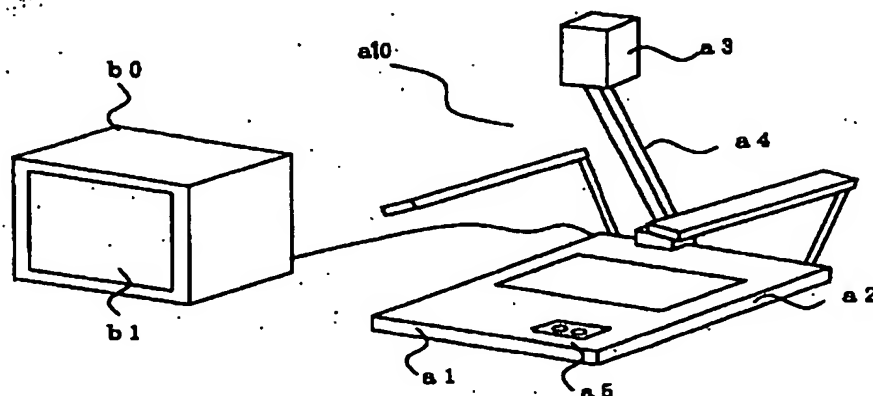
【図5】 従来の資料提示装置の操作方法を説明する模式図である。

【図6】 従来の資料提示装置を改変した仮想的な資料提示装置を説明する模式図である。

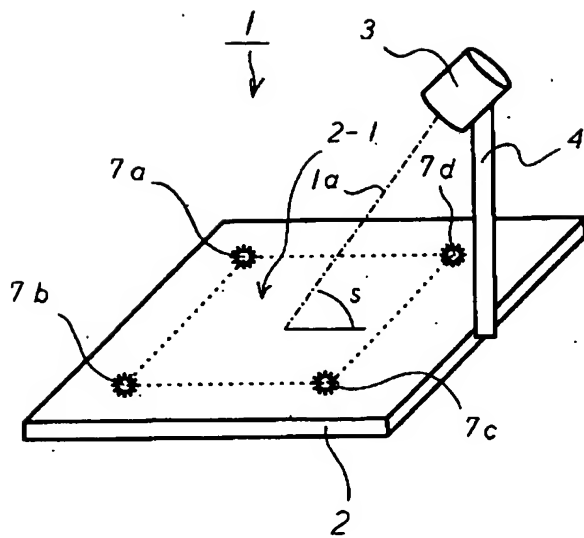
【符号の説明】

- 1 資料提示装置
- 2 提示台（ステージ）
- 2-1 資料載置面（資料載置部）
- 3 カメラ（撮像手段）
- 7a、7b、7c、7d 発光マーカー（点発光部、点発光手段）
- 11 抽出部（補正手段）
- 12 画像メモリ（補正手段）
- 13 算出部（補正手段）
- 14 表示映像生成部（補正手段）

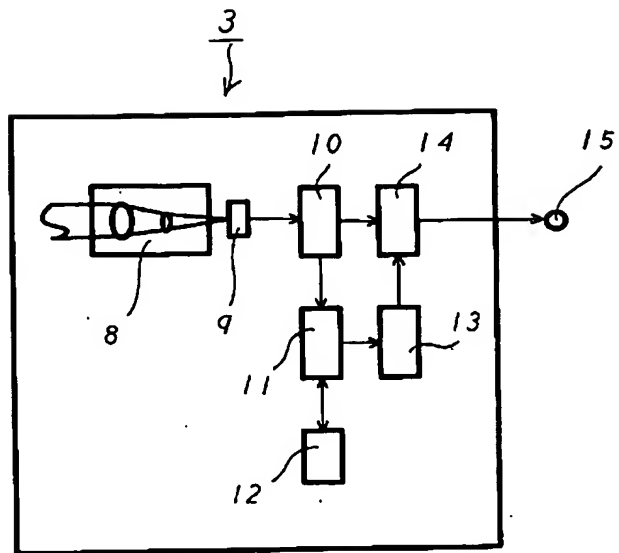
【図4】



【図 1】

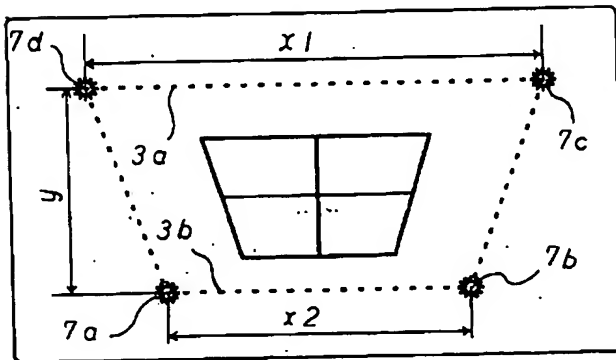


【図 2】

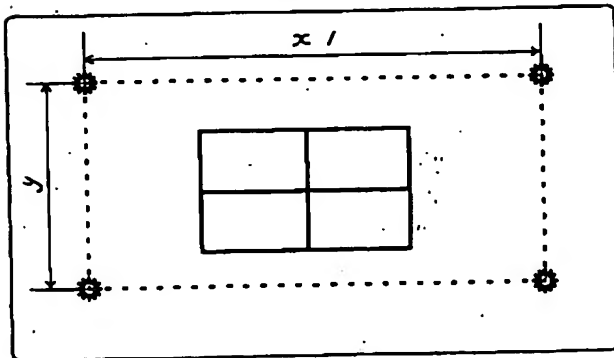


【図 3】

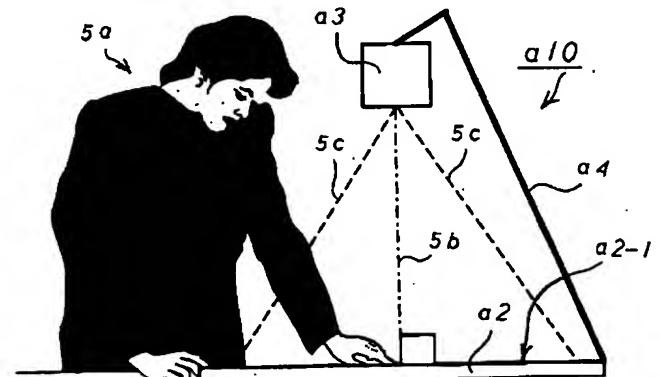
(A)



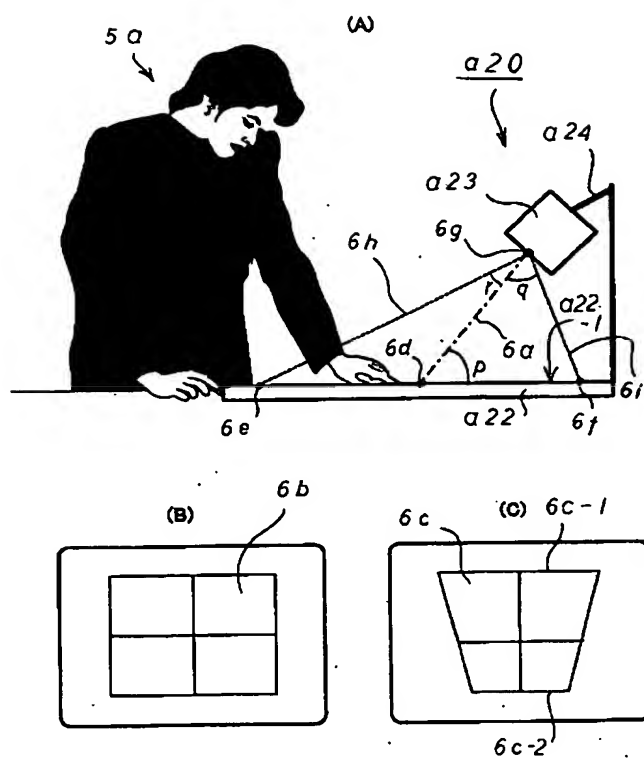
(B)



【図 5】



【図6】



フロントページの続き

(72) 発明者 千葉 裕
 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番
 地 日本ビクター株式会社内

Fターム(参考) 5B057 AA11 BA02 BA19 CA12 CA16
 CB12 CB16 CC01 CD12 DB02
 DC02
 5C022 AB00 AC26 AC42 AC77 CA07